



特別名勝  
**六義園**

- 開園年月日  
昭和13(1938)年10月16日
- 開園面積  
87,809.41㎡
- 開園時間  
午前9時～午後5時  
(入園は午後4時30分まで)  
※イベント開催期間などで時間延長が行われる場合もあります。
- 休園日  
年末年始(12/29～1/1)
- 無料公開日  
みどりの日(5月4日)  
都民の日(10月1日)
- 庭園ガイド(無料)  
土、日曜日、祝日  
(午前11時と午後2時の1日2回)

【お問合せ先】  
 六義園サービスセンター  
 ☎03-3941-2222  
 〒113-0021東京都文京区本駒込6-16-3

スタンプ欄

入園料	個人	団体 (20名以上)	年間パスポート (六義園)	年間パスポート (9庭園共通)
	一般 300円 65歳以上 150円	240円 120円	1,200円 600円	4,000円 2,000円
無料	小学生以下(要付添)及び中学生(都内在住もしくは在学) 身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳 または療育手帳持参の方と付添の方			

六義園・旧古河庭園「園結びチケット」 一般 400円 65歳以上 200円

集会場 (貸室)	①午前の部 9:00～12:00	②午後の部 12:30～16:00	③1日 9:00～16:00
	心泉亭 全室(25名)	4,800円	4,800円
心泉亭 松・つじの間(17名)	3,600円	3,600円	7,200円
心泉亭 もみじの間(8名)	1,200円	1,200円	2,400円
宜春亭 茶室(5名)	7,400円	7,400円	14,800円

※6ヶ月前の同日午前10時から受け付けます。 ※別途入園料が必要です。



【交通のご案内】  
 《電車》  
 JR山手線「駒込」(南口)、  
 東京メトロ南北線  
 「駒込」(2番出口)下車  
 正門まで徒歩7分、  
 染井門まで徒歩2分  
 ※イベント時などに臨時開門  
 都営三田線「千石」  
 (A3出口)下車  
 正門まで徒歩10分  
 ※駐車場はありません。  
 旧古河庭園まで徒歩18分

文化財庭園へご来園の皆様へ

都立庭園は、江戸、明治、大正時代から続く歴史・文化・自然を兼ね備えており、いずれも国や都の文化財に指定されています。震災や戦災、進む都市化の中で残された貴重な存在であり、この貴重な存在がよりよい状態で後世に残るよう、皆様にご理解とご協力をお願いいたします。

【庭園からのお願い】

- ペット(動物)を連れてのご入園、園内の動植物の採集、敷物の利用、酒類の持込みはご遠慮ください。
- 写真撮影、写生は建物・添景色保護のためにお断りする場所があります。
- 文化財は定期的な保存修理工事を要することがあり、一部ご観賞いただけない部分があります。

都立文化財9庭園

- 浜離宮恩賜庭園
- 旧芝離宮恩賜庭園
- 小石川後楽園
- 六義園
- 旧岩崎邸庭園
- 向島百花園
- 清澄庭園
- 旧古河庭園
- 殿ヶ谷戸庭園

公園へ行く！  
 発行：文化財庭園課 TEL.03-3232-3018

検索

お客様サポートセンター(協会事業全般に関するお問い合わせ)  
 TEL.03-3232-3038 ※8:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除く)  
 指定管理者 公益財団法人 東京都公園協会  
<https://www.tokyo-park.or.jp> 22.10





# 和歌の庭

六義園は五代将軍・徳川綱吉の信任が厚かった川越藩主・柳澤吉保が元禄15(1702)年に築園した和歌の趣味を基調とする「回遊式築山泉水」の大名庭園です。当園は池をめぐる園路を歩きながら移り変わる景色を楽しめる繊細で温かな日本庭園です。園内には和歌の浦の景勝や和歌に詠まれた名勝、中国古典の景観が八十八境として映し出されています。

江戸時代の大名庭園の中でも代表的なもので、明治11年(1878年)、三菱の創業者である岩崎彌太郎の別邸となりました。その後、昭和13(1938)年に岩崎家より東京市(都)に寄付され、昭和28(1953)年に国の特別名勝に指定された貴重な文化財です。



## ちやや つつじ茶屋

明治年間、つつじの古木材を用いて建てられたものです。戦災をまぬがれ、現代にその希少な姿を伝えています。モミジの紅葉が見事です。

## たきみちやや 滝見茶屋

あずまの横を深流が走り、岩の間から落ちて水しぶきをあげています。あずまからは、滝や石組(水分石/みずわけいし)などの景観や水音が楽しめます。



## せき ちゆう 石柱

庭内の88か所の景勝地(六義園八十八境)には、それぞれに石柱が建てられていましたが、現在では32か所のみが残っています。

## 園名の由来

六義園の名は、中国の詩の分類法(詩の六義)にならった古今集の序にある和歌の分類の六体(そえ歌、かぞえ歌、なずらえ歌、たとえ歌、ただごと歌、いわい歌)に由来したものです。柳澤吉保自身の撰した「六義園記」では、日本風に「むくさのその」と呼んでいましたが、現在では漢音読みで「六義」を「りくぎ」と読む習わしから、「りくぎえん」と読みます。

## ふじ しるとうげ 藤代峠

園内で一番高い築山で、標高は35m。いただきは「富士見山」と呼ばれ、そこからは素晴らしい展望が



開けています。紀州(現在の和歌山)にある同名の峠から名付けられました。

## ささがにのみち 蜘蛛道

古くはクモを「蛛」と呼び、この小道がクモの糸のように細いことから名付けられました。



## とげつきやう 渡月橋

「和歌のうら 蘆辺の田鶴の鳴くゑに 夜わたる月の影ぞさびしき」の歌から名付けられた石の橋。2枚の大岩の重量感が、あたりの雰囲気を引き締めています。

## いものやま せのやま 妹山・背山

中の島にある築山。古くは女性のことを妹、男性のことを背と呼び、この中の島は男女の間柄を表現しています。イザナギ、イザナミの故事にちなむ「せきれい石」もあります。

※中の島には入ることができません。

## でしおのみなと 出汐湊

大泉水の池畔の名のひとつ。眺望に恵まれ、右手に中の島、左手に蓬莱島、対岸に吹上浜が見えます。

## ないていだいもん 内庭大門

庭園の中心に入るための門で、広場にはしだれ桜の大き木が植えられています。



## ほうらいじま 蓬莱島

神仙思想を主題とした石組の一種で、典型的な洞窟石組(アーチ形)の島です。

## 庭園ガイド

ボランティアガイドと一緒に園内を散策しながら六義園の見どころ、日本庭園の話、歴史の話、和歌の話などを聞いてみませんか。

※土曜日曜、祝祭日の午前11時と午後2時の2回、所要時間約60分(無料)

## 六義園園内案内のアプリ(Tokyo Parks navi)

for iOS (App Store)

Tokyo Parks navi

for Android (Google Play Store)



こちらのQRコードをご使用頂くかAPPストアもしくはPLAYストアにて「都立公園」で検索してください